

視聴覚教育

月報

NO.8

発行日 32. 8. 25
 発行 岡崎市小中学校
 視聴覚教育協会
 編集 視聴覚教育協会
 調査部
 印刷 岡崎市明大寺町
 フラサー孔版社
 (電)340,2592

道遠けれど

会長 岡崎市立甲山中学校長 太田市郎

当協会も発足以来四年有矣、その間、市当局ならびに市教育委員会その他関係各位の格別な御援助によつて一歩一歩、協会本来の使命を達成するための道を進んでまいりました。

人間の性格は三、四才の幼児期にその主な部分が形成されるといわれますが、当協会も現在その性格を決定づける重要な岐路に立っていると考えられます。この機会に、過去四年間の足跡をふりかえり、今後の進むべき方向を考えてみたいと思ひます。

発足当初は協会の運営、施設々備の拡充に中心がおかれたのは自然な形であつ

たと思ひます。

しかし、こうした問題と取組んでいる中から大きな疑問が生じてきました。規約に「この協会は市内小・中学校の視聴覚教育の進展に寄与することを目的とする」とありますが、施設々備の拡充をすればその目的を達成することが出来るであらうか。

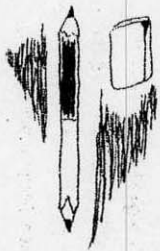
いかに整備された施設々備も、それを使用しようとする必要と場が設定されなくては無い等しいと言えます。こうした場の設定が昭和二十九年以降の研究主題となりました。

こうした足跡から考えるとき視聴覚教

育の進展は、日々の教育実践の中から生み出されてくるものであり、日々の実践こそ最も大切にされなければなりません。活動的な子供達の欲求に方向を与え、体形的な思考力・洞察力にまで進ませるためには、複雑な自然・社会の中にあるものこそ大切な材料であります。この生き生きとした材料を提供してくれるものに視聴覚教材があると思ひます。

視聴覚教材を日々の実践の中から見出し、また検討することが当協会的重要な事業となると共に、この研究・実践をスムーズに押し進めるための「ライブラリ」その他の施設々備の充実も併せ行われねばならないと考えます。

協会の前途は多難であり、山頂に立つて前方を見るとき、更に高い嶺がそびえていると言った感があります。しかし、いつも真正面から問題と取り組んで、確実な前進を続けたいと念願しております。



昭和卅二年度

事業計画

- 四月 ○ 常任理事会
- 五月 ○ 理事 会
- 六月 ○ 映写機巡回修理
北辰二日 エルモ一日
各学校において実施
- 七月 ○ 運搬車の購入
- 七月 ○ 「資料」第二集の発刊
- 七月 ○ 第一期フィルム の購入
- 八月 ○ 視聴覚「月報」八号発行
- 九月 ○ 九号発行
- 十月 ○ 学習指導研究
- 十月 ○ 視聴覚「月報」十号発行
- 十一月 ○ 第二期購入フィルム試写会
- 十一月 ○ 視聴覚「月報」十一号発行
- 十二月 ○ 十二号発行
- 十二月 ○ 第三期購入フィルム試写会
- 二月 ○ 視聴覚「月報」十三号発行
- 三月 ○ 理事 会

9月教材映画



フィルム名 ちゅうびん(二〇分)

適用学年 小二年 社会

単元 ちゅうびん

内容 (省略)

使用法

この単元は映画を中心に展開されている。学習目標に応じて、必要部分のみを使用するように考える。

フィルム名 たんぼの水(二〇分)

適用学年 小四年 社会

単元 矢作川流域の開発

内容

○千葉県九十九里一帯の農村は、気候温暖、地味肥沃の美田であるが、水に恵まれず、時々旱魃の被害を被った。

○同じ千葉県佐原地方は、利根川より低い湿地帯で、畑田が多く、排水に悩んでいた。

○そこで、この両地方の隣りである瀧瀬と排水を総合した計画が立てられた。

○「両総用水土地改良事業」として仕事が始められたが、工事の前に地元農民

の反対等幾多の問題が起きた。

使用法

天然資源の一つである水産資源の農業用水についての学習で、たゞ灌溉水の技術的な面の参考とせず、人々が農業生産を高めるためにどんな改善を必要とするか、又改善のためにどれ程の労力や資材が注ぎこまれたか、このような事業を行うためにはどのような社会的な条件を必要とするかという様な社会的・自然的条件を考えさせる資料とする。

フィルム名 漁村のくらし(一五分)

適用学年 五年 社会

単元 日本の水産業

内容

○漁村のくらしは、朝の三時頃から起きて働きはじめる。近年陸に近い所では、だんだん魚がとれなくなり、老人の仕事になって来た。

○若い働き手は、みんな沖合漁業に行き、小さな漁村にはいなくなつた。沖合漁

業の港は施設もよく組合もある。

○組合は、漁獲物を売りさばき経費を差引いて船主に渡す。船主はその金を五日目ごとに計算して漁師に分配する。

○漁師たちはその分配金で生活を立てる。漁に出られない日もあって、その生活は苦しいので、主婦達は日雇、てん草とりをしてお金をもつける。

使用法

小単元「漁村の人々のくらし」の教材として利用する。ただ漁民のくらしの実態を知らせるに止まらず、小規模な沿岸漁業の行き詰りと沖合漁業への発展、漁業協同組合が果している役割とその背後との関係、漁村の封建性の打破、其の上自然に左右されやすい不安定な生活の打開策等についてその相互関係や発展のための努力のあつたと考えさせるように利用する。

フィルム名 月(一〇分)

適用学年 二年 理科

単元 月の形しらべ

内容

○肉眼と望遠鏡による月のすがた

○月の引力による潮の満ち干

○月の満ち欠け

○月による星の掩蔽

○月の運行と月食及日食

フィルム名 火山三原山

適用学年 小六年 理科

単元 火山と温泉

内容

○伊豆大島の位置・大きさ・風俗・産業植物など。

○昭和二十五年の活動状況・爆発・熔岩流。

○爆発後の様子

○火山弾・火山礫・昇塵物・熔岩の検鏡

○安永噴火の熔岩流について

○大島の地質

○大島の成因

○昭和二十六年の活動

○爆発 火口附近の様子、熔岩湖、熔岩流、夜景

使用法

単元「火山と温泉」において、日本の代表的火山である三原山の成因を知り、その活動状況を、火山活動の様式として理解させ、三原山以外の幾多の火山の成因や活動様式を理解させる手がかりとすることができる。

X X X X X

A 番組組

○川風の子ら(五巻) 製作 劇団民芸
日曜日の夕方、父母につれられて水上小学校の子どもは家に帰って行く。水上小学校は水上生活をする人たちの子ども学校である。子供達は土曜日になると父母のむかえで家に帰るのであるが中には待ちかねた土曜日にも家へ帰れない子供もあつた。土曜日の夜だった、今日も帰れなかつた子供達が淋しさを忘れるためにテレビごっこを始めた。歌にあわせてさも楽器を持っていろいろな手ぶりで体をゆすっている。都内見学の時、テレビ放送局で見たオーケストラ演奏の記憶が子供達に強く残っていたのだらう。こうしてオーケストラ熱の高まるにつれて寄宿舎に残る子供達の顔から淋しさがこぼれた。それからいく日もたつて……音楽会を聞くまでに上達した。父兄の顔にも喜びをかくしきれなく共にうたう歌声がかがから海へ広がって流れていく。

○短編二本 題未定

B 番組組

○働く少年の集団 一巻
慈善家パロースさんは都合の街角で働く新聞売り、靴みがき、花売りなどの子供達を世話している。少年ホームロバーズの家の話
○オートメイシヨン 二巻
二十世紀の産業革命だといわれるオートメイシヨン。それは人間を重労働から開放し幸福を増大する。ここには大量生産方式の生みの親といわれるフォード自動車工場、大規模なオートメイシヨン化が紹介されている。何もかもが機械化され頭脳化されている。しかしやはり人間はいるのである。労働力でない高い技術と熟練を持った人々が。

九月巡回番組

備考 オートメイシヨンは小学生では理解困難かと思ひますので、小学校巡回の場合は「落ちていたお金」を巡回しますからそれを上映していただきますと思ひます。

巡回日程はライフラリーより後日通知致します。

トヨペットライトバン

トヨペットライトバン購入!!

先生にも子供にも親しまれ 三任間良く働いてくれました。トヨペットトラックともいよいよお別れです。御承知の如く本年度予算に納められる大きな特色の一つである自動車購入については皆様も期待をされた事と思ひます。幸い新会長の御骨折で予想外に理想的な車を手にする事が出来ました。ここにその概略を述べまして、御披露申し上げます。第一回の理事会に於て予算の決定を見まして早速その具体的方法について常任理事会を開催いたしました。予算は四十万円、古いトラックの下取り価格を十万円と計算し、計五十万円程度の中古車よりトヨタ自動車工場直販の重役の方に懇意な方があつたから、その方に御頼みして見たらとの申出があり、早速交渉していただきました。その後会長自ら教壇の御足旁を頻じ、やっと入手する事が出来



ました。車の性能を申しますと、車型はトヨペットライトバンですが、シャーシやスプリングは乗用車のマスターと同じ部品を使用しておりますので震動は少なく、映写機の運搬には申分ありません。二年前トヨタ工場で病院寝台車として試作され、モーターショウの展示品として二、三回出品されたもので、新車同様です。荷物運搬は後部の開閉ドアより荷物ルームに入れ、七五Kまで積載出来ます。乗車人員の定員は六人で運転席の後に補助席があります。外装はクリン色で塗装され、型、色共に優美なもので、この様な車を持つてはライブラリーは全面的にも珍らしいでしょう。会長の尽力は申す迄もなくトヨタ自動車工場の特長な御取り計らいに對しては皆様と共に絶大なる感謝と御礼を申し述べたいと存じます。今後増々ライフラリー発願の車に携々御使用の程御願ひ致します。

○オートメイシヨン 二巻
二十世紀の産業革命だといわれるオートメイシヨン。それは人間を重労働から開放し幸福を増大する。ここには大量生産方式の生みの親といわれるフォード自動車工場、大規模なオートメイシヨン化が紹介されている。何もかもが機械化され頭脳化されている。しかしやはり人間はいるのである。労働力でない高い技術と熟練を持った人々が。

